

會員だより

庄内郡郷土誌研究の発足

數年前から庄内文化向上協議会が、庄内五ヶ郡有志によつて結成されて、ブロック内の文化向上について意見が交されてきたが、その中の大きなものとして郷土誌編纂の計画があつた。しかしそのことは實際に着手はされていなかつた。

時たま地方教育委員会の発足に伴つて、二宮教育長の發議で阿南、東庄内、西庄内南庄村四ヶ村の各学校、公民館関係者をもつて會員とし、各村長、村議會議長、教育委員を参与とする教育振興協議会が結成され、文字通り教育各般の振興を希圖してきた。その中の一部門として郷土誌編纂部が設けられて、校長四、各校教官代表各一名宛、公民館代表一計十四名をもつて委員會は構成された。

この委員會は前記文化向上協議会と緊密な連絡をもつて郷土誌を作製することを目標として発足した。

委員會は昨年度第二学期以来十余回の會合を催して、編纂計画、計画に基く各委員の調査研究、委員の調査研究事項の討議と漸次歩を進めてきた。

現段階においては、各部門全般に亘る各委員の分担事項をプリントに纏めて、合同討議に附する処にある。この後は、この案を郷土史研究先達の檢閲批正を願ひ、次いで振興会全体會議に上提審議の上、上梓することとしてゐる。この完成は一応本年の十二月と予定してゐる。

參考までに研究項目は次の通りである。

(イ) 地誌的方面

- 一、沿革、位置
- 二、面積、人口(附地圖)
- 三、地勢(附觀光關係)
- 四、産業經濟
- 五、交通、通信
- 六、政治
- 七、教育、文化
- 八、五十年後の郷土
- (ロ) 郷土史方面
 - 一、略史
 - 1 古代
 - 2 封建前
 - 3 封建後
 - 4 現代
 - 二、旧蹟
 - 三、伝説、口碑
 - 四、神社、佛閣

- 五、郷土の偉人
- 六、風俗、習慣
- 七、郷土行事
- 八、文化財(刀劍書画)
- 九、方言
- 一〇、地名の起源

郷土誌編纂委員名

- | | | |
|-----|------------|-------|
| 部長 | 西庄内小学校長 | 曾根崎 茂 |
| 副部長 | 東庄内小学校長 | 足田 治人 |
| 委員 | 南庄内小学校長 | 猪股重太郎 |
| | 直山小学校長 | 中畑ハツエ |
| | 阿南小学校教務主任 | 工藤 律 |
| | 大津田小学校教務主任 | 衛藤 金喜 |
| | 東庄内小学校教諭 | 袂間 良昭 |
| | 庄内東部中学校教諭 | 高尾 尙一 |
| | 西庄内小学校教務主任 | 石川 忠恕 |
| | 長野小学校教務主任 | 二宮 ハマ |
| | 星南小学校教務主任 | 清水 勝喜 |
| | 南庄内小学校教務主任 | 安部 孜 |
| | 庄内中学校教諭 | 江藤瀾太郎 |
| | 西庄内公民館主事 | 生野 積善 |

(曾根崎茂記)

活躍する深見村文化財保護委員會

本誌常任委員半田、賀川、立川の三名は大分放送局の郷土資料調査委員として去る八月卅一日と翌九月一日の両日、他の調査員

一行と宇佐郡深見郡の探訪調査を行ったが、其際一行の特に関心を持ったのは、河郡の文化財保存委員会の活躍であつた。おそらく県下に於て僅か一郡で文化財の保存顕彰の爲めに拾万六千円の予算を計上し、専任職員を置いて活躍して居るところは他に類例がないのではあるまいか。短期間に多くの成果をあげつつあるに驚くと共に、今後の活躍に期待する次第である。左に概況を記して読者各位の参考に資する事とする。

(廿九、九、三立川輝信記)

宇佐郡深見村文化財保護委員会

- 一、昭和二十九年四月五日郡会に於て文化財保護委員会条例制定
 - 二、役員 文化財保護委員、村会議員全員十六名 教育委員五名、村長、教育長、村助役 学識経験者五名 計廿八名
委員長 末松俊雄、元村長現教育委員長 副委員長 江藤季吉、栗林留吉
 - 専任書記 末松伝、兼任事務員 林四枝
 - 三、経費 昭和二十九年度分金拾万六千円
- 内訳 職員給料 四六、〇〇〇円
事業費 五〇、〇〇〇円
予備費 一〇、〇〇〇円
計 一〇六、〇〇〇円

会員日より 会報

四、実施した事業の概要

- (一) 郡内に存在する文化財の研究調査
 - (二) 賀川先生を招待しての実地調査並に講話会座談会
 - (三) 神社、仏閣、古蹟、名勝地等に対し調査物縁起等の刊行
 - (四) 名勝並に古蹟跡垂尊の土地買収保存 (昭和二十八年度)
 - (五) 郷土史編纂、資料蒐集中
 - (六) 考古学資料の発掘並に蒐集保存
 - (七) 民俗風習中、教化、教養上、価値あるものゝ保存と奨励
- 例 盆踊を唯りレクレーション農村娯樂とせず、初盆会の儀式の後に行ふ 供養の踊りとしてゐること
- (八) 通俗文学としての地方民謡の改良、創作等の実行、深見音頭懸賞募集
- (九) 其の他

會 報

一、本会の発会式 桌下を一つにした地方史研究会の発足と機関誌の発行は、多年の要望であつたが、いよゝその機が熟し、去る六月廿日大分商工会館で発会式を行い、研究発表、規約審議、役員決定(別項参照)顧問、名誉会員の推薦特別講

演等を行い、空前の盛會を以て終了した。参会者約百名、当日の研究発表及び特別講演は次の通りである。

研究発表

- 一、日田中城河岸と竹田河岸 勝目 忍
- 二、庄園における職について 宇梶 秀雄
- 三、塚原百塚と女神崇拜 志手 環
- 四、岡藩の医学並に社会福祉事業 北村 清士
- 五、宇佐虚空藏寺遺跡の発掘について 賀川 光夫

特別講演

古奥に見えたる大分県の地名について 文学博士 清原 貞雄

当日推薦の名誉会員は左の諸氏である(いは順敬称略)。

- 岩崎實(県会議長) 上田保(大分市長)
- 大分県社会教育課長 辛島詞士(医学博士)
- 高山英明(元大分市長) 花田大五郎(大分大学長)
- 古本春藏(弁護士) 細田徳壽(大分県知事) 松本義一(二豊学会長)
- 水原直光(大分県史学会会長) 矢野孝吉(大分市文化財保存会々長)
- 二、常任委員会 第一回常任委員会を七月